

## 桑枝軟腐病の発生生態と被害回避技術

(蚕試：環境部)

### 1. 背景とねらい

桑桑収穫の機械化を前提として密植桑園が普及しているが、桑枝軟腐病の突発的な発生が目立ち、株枯れによる欠株の多発など、桑園の生産力低下の大きな要因となっている。

そこで、枝軟腐病の発生生態を調査し、被害回避技術について検討したので、参考に供する。

### 2. 技術内容

#### 1) 枝軟腐病の発生生態

(1) 桑枝軟腐病菌は晩秋期に枝条の切り口から侵入し、春になって、急激に枝枯れを進行させ、放置すれば、株枯れまで進むことが多い。

(2) 桑枝軟腐病は晩秋期（9月）中間伐採において、伐採後の枝条に緑葉が残らない状態のときに発生する。この場合、伐採時期が早いほど被害が大きい。また、伐採程度が強い深切りほど翌春の被害が大きくなる。

#### 2) 被害回避技術

(1) 9月の中間伐採は深切りを避け、落葉長を考慮して、緑葉が5枚以上残るように刈高を調節する。

(2) 過繁茂による落葉を防止するため、隔畦収穫・2畦残2畦収穫など収穫法の改善を図る。

(3) 春に枝軟腐病の症状が確認されたときは、直ちに春切して、株の枯死を防止する。

### 3. 指導上の留意事項

1) 密植桑園は早い時期から落葉長が高くなりやすく、桑園の中心部では思わぬ高さまで落葉しているため、機械収穫では、中心部の落葉長を確認して刈高を決定する。

2) 晩秋期の中間伐採は、他の桑の枝枯性障害（芽枯・胴枯・寒枯）とも関係が深く、中間伐採の巧拙は桑園の生産力維持に影響するので、緑葉を残して樹勢の確保に努める。

### 4. 参考文献・資料

1) 大川 達ほか（1984）：千葉県蚕試要報第3号

2) 飯田 至・坂本 昌夫（1985）：千葉県蚕試要報第4号

## 5. 試験成績

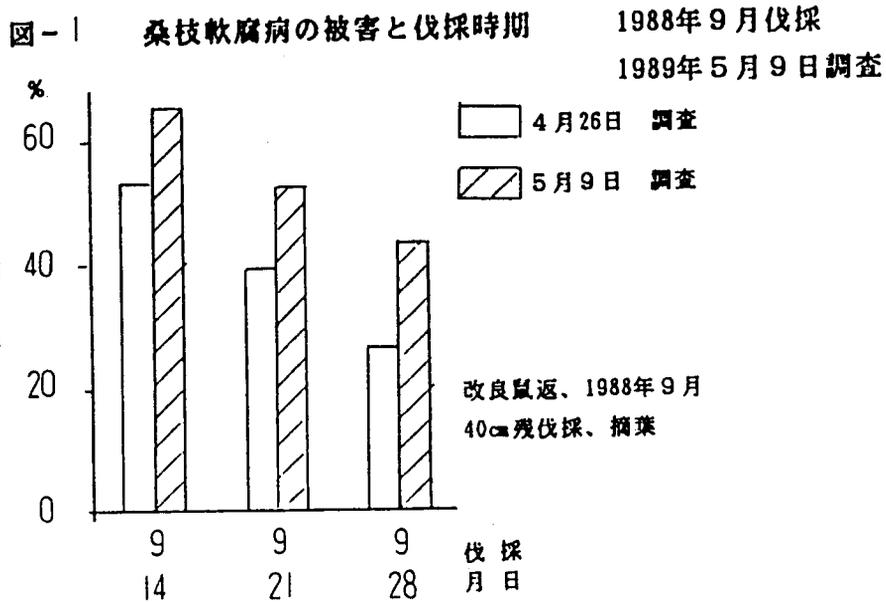
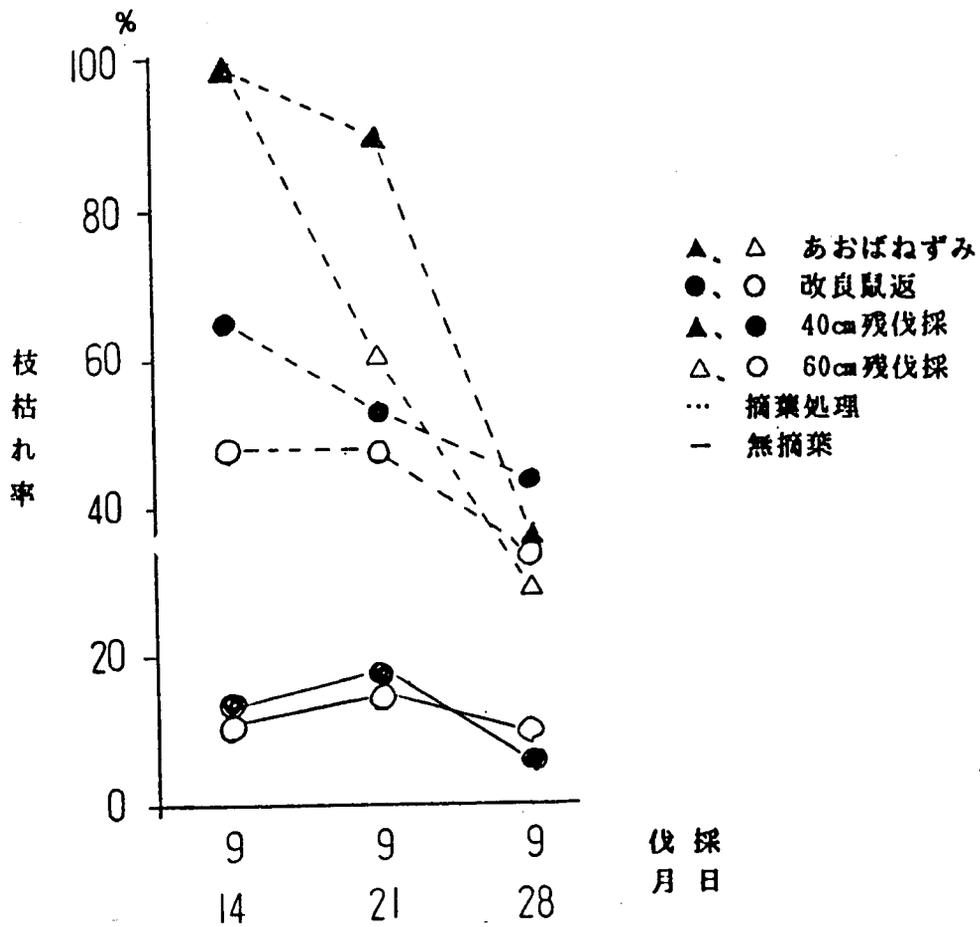


図-2 桑枝軟腐病による春の枝枯れ